

平成27年度 小松市立中海小学校 学校評価結果報告書

小松市立中海小学校

	自己評価				学校関係者評価		
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況	学校関係者評価者による意見	次年度に向けての改善計画
① 組織的な学校運営	〈学校運営〉	【満足度指標】	分掌における取組が十分整理されており、共通理解のもと事業が進められていると感じている職員が	・主要事業は、主任や担当者を中心に、計画・実行・検証・提言の流れで実施できた。 ・検証では、次に生かすための審議が諮られ、次年度への課題を明確にしている。	A	・主要事業は、主任や担当者を中心に、計画・実行・検証・提言の流れで確立されている。 ・次年度も適切に実施していったほしい。	・年度当初～1学期にかけて、主任や担当者が変わることによる事業の滞りが起こらないよう、打合せを密にする。 ・提言を次年度の実施要項等に赤字で明記しておくこととし、確実な改善と校務の効率化を図る。
	校長の学校経営構想のもとで、各主任を核に、組織としてPDCAサイクルを意識した学校運営を心掛ける。	各分掌において、計画・実行・検証・提言が整理されており、全職員の共通理解のもと校務が運営されている。	A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満				
	〈人材育成〉	【満足度指標】	研修会を通して、授業力、生徒指導力、学級経営力の向上が図られたと感じている職員が、	・計画的に、授業力向上及び生徒指導力向上に関する研修会を行った。 ・日常的に情報交換を頻繁に行い、指導力の向上に役立っている。	B	・授業力、生徒指導力、学級経営力の向上を図るために、日常のOJTや校内研修を行っている。 ・教職員の得意分野を生かした研修会の回数を増やし、計画的に実施する必要がある。	・校内研修会やミニ研修会の計画を年度当初に立て、研修の機会を増やす。教職員の得意分野を生かしたミニ研修会を設ける。 ・学年や分掌ごとに、日常的かつ意識的に、OJTを進めていく。
日常のOJTや校内研修を通して、授業力、生徒指導力、学級経営力の向上に努める。 【学びの指針11条】	校内研修会やミニ研修会を通して、授業力、生徒指導力、学級経営力の向上を図っている。	A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満					
〈いじめ・不登校対応〉	【満足度指標】	問題の未然防止・早期解決が図られたと考えている職員が	・対策委員会が常設され未然防止・早期発見・早期解決に努めた。 ・アンケートを実施し、結果や分析面談で事実確認を行い、必要に応じて指導を行った。 ・定期的に児童理解の会・支援会議を開き、全職員で情報交換し共通理解を図っている。	B	・いじめ・不登校対応において、チームで対応し、未然防止と早期発見、早期解決に努めている。 ・問題の対応についての情報共有を、ぬかりなく行う必要がある。	・普段の職員室での会話で気軽に相談できるとより早期発見につながると考えられる。 ・改善されたことや情報の報告が遅れることのないよう、迅速に伝えていく。	
全職員が児童の小さな変化も見逃さない意識を持ち、組織的に問題の未然防止・早期発見・解決にあたる。	日常的な報告・連絡・相談を行うとともに、児童理解の会を定期的に行い、情報交換を密にする。問題発生時はチームで対応し、早期解決に努める。	A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満					
② 確かな学力の育成	〈基礎・基本の学力の定着〉	【成果指標】	基礎・基本の定着度が	・全校月末計算テストを計画的及び継続的に行った。 ・91%の児童が8割以上を達成した。	A	・計算などの基本的な問題について、目標基準値を達成できている。 ・次年度も適切に取り組んでほしい。	・級外が支援として入る組織的な個別指導が必要である。 ・類題20題のテストなのでより正確な計算力の育成を図る。 ・来年度は、達成度判断基準値を上げる。 ・国語科の言語事項についての全校的取組を実施していく。
わかる授業の実践、学習タイムの有効活用などにより、計算の基本をしっかりと定着させる。 【学びの指針4条】	全校月末計算テストで、8割以上できる子が80%を越えるようにする。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満					

② 確かな学力の育成

<p>(授業力向上)</p> <p>「主体的に学ぶ子」の育成をめざして授業力の向上に努める。</p> <p>【学びの指針1, 2, 3, 5, 6, 11条】</p>	<p>【成果指標】</p> <p>自ら課題解決に取り組み、ペアやグループなどにおける学習に進んで取り組んでいる。</p>	<p>進んで学習に取り組んでいると感じている児童が</p> <p>A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を中心に、授業の流れなど研究の方向性を共有した。 ・問題を子どもたちで作る授業や、「～したい」という「たい」のある授業を意識して行った。 ・児童アンケートから、どの項目も80%以上を超えているのでA評価とする。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲が知識に結び付かない理由を明らかにし、対策を進めていく必要がある。 ・保育園で今取り組んでいる「サイエンス」の活動との関連が深い。科学の目を養い意欲をもって取り組める流れを確立し、小保が連携していくと良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートと評価の指標の整合性が取れていないので、児童アンケートの中に「進んで学習に取り組んでいる」という項目を入れる。 ・達成度の判断基準値を上げる。 ・意欲がなかなか知識に結びつかないため、「見える形の学力」も目指して検証を続けていく。
<p>(家庭学習の習慣化)</p> <p>学年にふさわしい内容・時間を伴う家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>【学びの指針7条】</p>	<p>【成果指標】</p> <p>児童がやる気と向上心をもって、家庭学習に取り組んでいる。</p>	<p>家庭において、十分な学習が定着している児童が</p> <p>A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習強化週間「しゅ・れん・じ」の取組や、強化週間外における学級での継続的な取組を進めた。 ・児童アンケート92.5%、保護者アンケート88.8%。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習強化週間を中心とした取組の成果が見られる。 ・家庭学習強化週間と合わせて実施している「ノーマディア」の回数と日数を、増やす方向で検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や実態に応じた内容を考え、質的な向上をめざして、保護者との連携をさらに図る。
<p>(積極的な生徒指導)</p> <p>自他ともに認め合い、学校に来ることが楽しいと感じる子どもを育てる。</p>	<p>【努力指標】</p> <p>生徒指導の3機能(自己決定・自己有用感・共感的人間関係)を意識した授業を心がける。</p>	<p>授業において3機能を意識している教員が</p> <p>A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高めるために、様々な他者評価の場を意図的に設定した。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高める取組は、保育園でも実施しており、小学校でも継続して実施されていて良い。 ・今後も、積極的に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに「つながる」を意識した教材研究を行っている。
<p>【成果指標】</p> <p>学校へ来ることが楽しいと感じる子が100%になるように努める。</p>	<p>楽しいと感じている児童が</p> <p>A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達のがんばりを認め合う場を設けた。 ・児童の良い面・直すべき面が見られたらその場で指導し、クラスで考えた。 ・児童アンケートで88.1%が楽しいと感じている。友だちとなかよくできていると思っている児童は100%である。 	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートは記名式なので、悩んでいる子がいたら、きちんと個別に話を聞いてあげて欲しい。「あまり楽しくない」と答えた子たちが「まあまあ楽しい」や「楽しい」と答えられるように、支援を行ってほしい。 ・校下公民館の活力と連携し、協力していきたい。地域社会の中でも、交流し子どもを育てていきたい。親育ても地域の中で行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は学習規律がまだ定着していない児童がいるために学習に集中できず低い評価になってしまったと考えられるので、支援体制を充実させていく。 	

③ 豊かな心の育成

③ 豊かな心の育成

<p>(キャリア教育の推進)</p>	<p>【成果指標】</p>	<p>夢や希望をもっている児童が</p>	<p>・学校行事やたてわり活動、委員会活動、普通の授業で、目標をもって学校生活を送り、達成感を味わわせる体験を積み重ねた。 ・児童アンケートで87.3%。6年生は100%。</p>	<p>B</p> <p>・地域で働く人と接する機会をもつことはとても大切である。 ・「先輩みたいになりたい」と思えるように、保護者も含め、働きかけていってほしい。 ・地域行事などを通して、地域全体で子ども達を育てていけるよう、協力していきたい。</p>	<p>・1年間だけの取組ではなく、6年間を見通したキャリア教育の推進を、今後も展開していく。 ・地域で活躍している方をゲストティーチャーとして招聘する機会を増やす。</p>
<p>将来なりたい自分の姿を思い描き、目標をもって学校生活をおくることができる子どもを育てる。 【学びの指針10条】</p>	<p>自分の将来に夢や希望をもっている子が8割以上になるように努める。</p>	<p>A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満</p>			
<p>(読書活動の充実)</p>	<p>【成果指標】</p>	<p>年間貸出冊数の目標(100冊)を達成している児童が</p>	<p>・年間の貸出目標を図書室に年度当初から掲示し達成人数を更新した。 ・おすすめ10冊を年2回行い様々なジャンルの本を手にする機会を設けた。 ・2月22日現在で74.8%である。3月までで80%を超える見込みである。</p>	<p>B</p> <p>・「おすすめ10冊」や貸出冊数の掲示など、取組が工夫されている。 ・いろいろな本を手にする機会がきちんと設けられている。 ・今後も学年にふさわしい本の充実を続けて欲しい。</p>	<p>・学校での読書の取組をもっと発信し、家庭でも読書を行える環境づくりを進めていく。</p>
<p>幅広いジャンルの本に出会う様々な機会を設け、読書が好きな子どもを育てる。 【学びの指針8条】</p>	<p>児童の8割以上が、年間の貸出冊数においておすすめの本10冊を含み100冊以上となるように努める。</p>	<p>A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満</p>			
<p>(道徳教育の充実)</p>	<p>【努力指標】</p>	<p>内容を工夫した授業を学期に</p>	<p>・道徳の時間の実施確認や道徳別様の評価を記入して取り組んだ。 ・別様の評価を行い学年の児童の様子や指導の工夫を明確にした。</p>	<p>B</p> <p>・次年度も適切に指導して行ってほしい。 ・つけたい力を明確にし、計画にもとじて実施できると良い。 ・地域の方を招いて学ぶ機会を取り入れると良い。</p>	<p>・別様について、改善策を作成する。 ・ゲストティーチャーを招聘した「道徳」の授業の計画を立て行う。</p>
<p>児童の実態に即して、いしかわ版道徳教材の活用やゲストティーチャーの招聘等指導方法を工夫する。</p>	<p>指導の内容を工夫した授業を、どの学年も学期に2回以上行う。</p>	<p>A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった</p>	<p>・つけたい力に応じて内容を変更したため計画通りに進めることが難しかった。</p>		
<p>(情報モラル教育の推進)</p>	<p>【成果指標】</p>	<p>ネットモラル検定で、8割以上とれた児童が</p>	<p>・情報モラルの指導を行い、情報モラル検定を行った。 ・全児童の平均が92%であったため、A評価とする。</p>	<p>A</p> <p>・基準値を十分に達成できている。 ・これからの時代、情報モラルを身につけることは、とても大切である。次年度も、継続的・計画的に取組を進めていってほしい。</p>	<p>・達成度の判断基準値を上げる。 ・ネットモラル検定は、1～4年までは同じものを年間2回(確認のため)、5年以上は異なるものを年間2回行う。</p>
<p>市教委員会作成の年間計画に基づいて、計画的に指導を行う。</p>	<p>児童がネットモラル検定で、8割以上とれるよう努める。</p>	<p>A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満</p>			
<p>(たくましい体の育成)</p>	<p>【満足度指標】</p>	<p>体育カードの活用や校内各種大会に十分取り組んだ職員が</p>	<p>・各種カードを十分に活用し、児童に意欲を持たせて取り組ませた。</p>	<p>A</p> <p>・体育カードの取組や、校内の各種大会の取組など、工夫して行っている。 ・たくましい体の育成は、保育園でも進めており、小学校でも継続して実施されていて良い。</p>	<p>・児童の体力の向上をねらい、カードの工夫だけではなく、環境の工夫を試み、児童が楽しみながら自然と体力を高められる場を設定する。</p>
<p>体育科や特別活動での体育的活動を通して、スポーツや体を動かすことの楽しさを知る。</p>	<p>各体育カードを活用したり校内各種大会に取り組む。</p>	<p>A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満</p>			

④ 健やかな身体の育成

④ 健やかな身体 の育成	〈健康教育〉	【成果指標】	早寝・早起き・朝ごはんが実行できている児童が	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝、早起き推奨運動（15分チャレンジ）を実施した。 ・継続活動として2月には、児童保健委員会で15分チャレンジを実施した。 ・児童アンケートでは、早寝・早起き・朝ごはんが実行できている児童は88.8%だった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝、早起き、朝ごはんは、保育園でも進めており、小学校でも継続して実施されていて良い。 ・ノーメディアデーに、保護者も共に取り組むことで、その良さが分かる。学校からの働きかけで家庭での取組も進むので、今後もさらに拡充させて行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しゅ・れん・じ」でのノーメディアデーの取組を継続し実施する。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」90%をめざし、保護者にも啓発を続けていく。 ・心の健康面や姿勢についても考えていく。
	健康の増進、危険の回避、望ましい食生活等について、教科・特別活動等と関連させ、系統的な指導を行う。 【学びの指針7条】	健康の保持・増進に関心を持ち、望ましい生活を送っている子を8割以上にする。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				
⑤ 家庭・地域との連携	〈あいさつができる子の育成〉	【成果指標】	進んであいさつができたと感じている児童が	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ日本一を目指して、挨拶運動を続けた。 ・スマイルハート表彰等、対外的にも評価された。 ・97%の児童が進んであいさつができたと感じた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・この取組は、中学校のあいさつ、そして社会人へつながっていく。あいさつができることは一般社会人として大事なことです。学力、体力ともに必要であるが、あいさつを一番大切にしてほしい。 ・あいさつができる子が多いのは、地域の力でもある。 ・あいさつからコミュニケーションが始まり、人とのつながりが広がる。公民館行事や町内の行事等が活発に行われていることが、よい影響を与えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定着をめざし、あいさつ運動を継続していく。 ・家庭での評価はやや低いので、学校での児童の様子を伝え家庭とも連携していく必要がある。
	地域と一体となって社会性を身につけた児童を育成するために、時と場に応じたあいさつができる子を育てる。 【学びの指針7, 9条】	児童が身近な人に進んであいさつができたと感じている。	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満				
	〈ふるさとに愛着をもつ子の育成〉	【努力指標】	ふるさとや地域の人から学ぶ活動を	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとや地域の人から学ぶ活動を、どの学年も2回以上行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達には、ぜひ地域の行事に参加してほしい。地元を知り、地元を愛着をもってもらいたい。 ・中海の風土、環境など、地域に誇りを持つ教材がたくさんあるので、今後も取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさとや地域の人から学ぶ活動」とはどのような活動なのか、実際に体験した活動(年間体験活動一覧表)を参考にし、共通理解する必要がある。
	総合的な学習、体験学習をおしてふるさとの自然・文化・人々に学び、ふるさとを愛する心を持つ子を育てる。	ふるさとや地域の人などから学ぶ活動をどの学年も2回以上行う。	A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった				